

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	辻極秀次
所属機関名	生物地球学部恐竜学科
職位	教授
在籍年	11 年

教育の責任

生物地球学部恐竜学科に所属しており、生命科学分野に関連した授業科目を担当している。主な担当科目は「病理学」(医療技術学科 1 年)、「解剖学・解剖生理学」(医療技術学科 1 年、恐竜学科 2 年)、「古生物学のための基礎病理学」(恐竜学科 2 年)、「解剖組織学実習」(恐竜学科 3 年)、および「病態予防医学特論」(修士 1 年) などである。また、臨床生命科学科の 2 年生のチューターを担当している。その他、学部生および大学院生の研究指導、就職指導、学生の進路などの相談にも随時応じている。

教育の理念

古生物分野では、地質学分野からの視点で化石研究が展開されてきた。恐竜学科の新しい試みとして、化石を石として捉えるのではなく、生物の遺骸として生命科学分野からの視点で化石研究を展開したいと考えている。また、化石を用いて、実験に基づいた前向き研究的(**prospective study**) な研究手法を積極的に取り入れたい。

上記の研究経験を通じて、直感的に物事を考えるのではなく、検証実験の積み上げによるエビデンスに基づいた実験結果を導き出すような考え方を身につけて欲しいと願っている。

社会に出た学生は、これから様々な経験をする。予想しなかったハプニングが起こっても、論理的にものごとを考え、自らにとって最善の選択をできるような、強い精神をもった人物を社会に送りだせるような教育を目指している。また教育研究を通じて、自分の人生を楽しむことができるような、知識・教養を身につけられる教育を理想としている。

教育の方法・方針

物事を判断する最低限の知識は必要であるが、情報が氾濫している現在では、情報を自ら取捨選択できる能力が必要と考える。講義では知識中心の講義ではなく、自分で考え判断できる能力が付くような講義に配慮している。また国家試験対策にも対応している。

- ・ 国家試験に必要な内容に関しては、問題を解くことにより自分に何か不足しているか、自分の弱点を自覚し、弱点を克服することに重点を置く。

- ・ 実習では、実際に対象を目にしたり手で触れたりしながら学べるように、実験動物の解剖を行っている。また、様々な臓器を観察して学べるよう、心臓、肺、腎臓など、体を構成するほとんどの臓器組織標本を整備している。

- ・ 講義では、スライドや動画資料などを mylog からダウンロード可能な状態にしており、復習に活用できる環境を整備している。

- ・ 卒業研究では、学生自信が、自ら自発的に研究を展開できるようなテーマとなるよう心がけている。学生に合わない研究テーマと感じたときは、臨機応変に研究テーマを変更できるように、方向転換可能な研究設計としている。また、学生の意見を尊重して、研究テーマを選択できるように複数の選択肢を用意している。

教育の成果

- ・ 「病理学」「解剖学」の授業評価アンケートにより、ほとんどの学生が授業に満足、ほぼ満足と解答していることから、教育効果があったと判断している。

- ・ 講義終了後に、学生から積極的な質問があることから、向学心が育っていると判断している。

- ・ 国家試験に関連した試験前後の補習を行っているが、学生が積極的に参加しており、試験の

成績にも反映していると思われる。 ・大学院生の研究では、学生自ら学習し研究計画を立てたりするなど、自立した姿勢が認められる。 ・臨床検査技師国家試験は、年によって変動はあるが比較的高い合格率を保っている。
今後の目標
・グループディスカッションの機会を積極的に増やし、学生が自らの意見を発言できるような環境を作っていきたいと考えている。 ・研究成果を迅速に国際専門誌に論文として発表できるよう、教育体制、周辺環境を整えていきたい。
根拠資料
1 講義スライド、実習資料 2 2024 年度授業評価アンケート 3 現在までの国家試験合格率